

動く広告塔 はもみん ナンバー導入



県内初のご当地ナンバープレート(原動機付自転車)の交付が7月よりスタートしました。初日の交付式で、第1号となる市民代表の古田佳介さん(緑ヶ丘)をはじめ、関警察署やJAめぐみのなど5団体

が「関*はもみん」がデザインされたプレートを、市長から受け取りました。早速プレートを取り付け、各団体は「広く関市をPRします。交通安全に気をつけ、市民の模範運転となります」と宣言しました。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



匠の技は芸術の域

高山市で開かれた全国建具フェアで、長屋鎮裕さん(洞戸通元寺)が、全国の職人が作り上げた144作品の中から見事、経済産業大臣表彰を受賞されました。「出会い」と名付けた作品は、立体のハート型、意匠を施した曲線、実用性にも優れている自動ドアです。多くの人に見てもらいたいと、わかさプラザに展示され、来場者は絶妙な細工に引き込まれていました。

被災された方々に希望を

東日本大震災の復興支援活動のため、7月7日～10日、関市民ボランティアが岩手県上閉伊郡大槌町で、側溝の土砂の排出、海岸のがれきり集めなどの作業をしました。東北の方々に少しでも手助けできればとの思いから手を挙げた市民18人。暑く厳しい環境の被災地で、尊い精神で職務を全うされました。復旧が進んでいる地区もありますが、まだまだ活動要請が多い状況とのことです。市は引き続き支援してまいります。





鮎の友釣りにチャレンジ

地域の夏の食材になる鮎を自分たちの手で釣ってみたいと、富野中学校生徒が津保川で友釣り体験をしました。事前に、鮎の習性や友釣りの原理を学習。この日は津保川漁業協同組合の会員らに、おとり鮎の付け方やさおの持ち方などの指導を受け、当たりが来るのを待ちました。生徒らは苦戦しながらも、地元ならではの行事に面白さを実感していました。

七夕に涼やかなお楽しみ

西部保育園で恒例の七夕の「流しそうめん」が行われ、園児76人が代わる代わる一列に並んで、目の前を流れるそうめんを楽しみながら味わいました。傾斜をつけて設置した長さ約10メートルの竹にそうめんを流し、箸やフォークを使って上手にすくい、コップにほおぼると「冷たくておいしい」「もっと食べたい」と歓声を上げ、満面の笑みを浮かべていました。



伝統の炎燃ゆ

下之保戸丁地区で伝統の「たいまつまつり」がありました。明治以前に疫病が流行した時、旧戸丁橋たもとにあった若宮様まで、たいまつを灯し願をかけたのが始まりといわれています。今年も各戸3本ずつたいまつを持ち寄り、1年の無病息災を祈りながら道路脇に掲げていきました。150年以上続く伝統の灯を消さない区民の姿に自信と誇りがあふれていました。

災害時に避難者入浴サービス

市は、倉知の浴場施設「マゴの湯」を運営する株式会社サン・ストラッセと、大規模災害時に自宅が損壊するなど入浴が困難となった避難者が多く発生した場合、無料で入浴サービスを提供する協定を締結しました。マゴの湯を役立ててほしいと、サン・ストラッセ側から提案があったもので、有事の際、多くの市民に喜んでもらえる大変心強い協定となりました。



こぼれ話



少し出遅れ感がありますが、この夏の「我が家でもできる節電対策」の一環として、グリーンカーテンに取り組んでみました。苗をポットからプランターに移し、2階のベランダからネットを垂らして2週間弱。つるはぐんぐん伸びてネットを登り、その長さは2メートル近くになりました。成長の早さに毎日感心して見えています。生い茂るカーテンのイメージには、まだまだですけどね。

ここで種明かし・・・成長がいいのは、毎日世話をし

てくれている婆ちゃん(私の母)のおかげです(^_^)
この植物は、小学生の娘が学校からおすそ分けしていただいた「へちま」です。へちまと聞いて私は「あ、食べられない!」という感想と、小学生時代に「へちまたわし」を作った記憶があり、その過程で実を腐らせる作業などがあって、においがきつかった記憶が・・・いやいや、涼しさをいただいた後は、頑張ってたわしを作ってお風呂で使います!!(たわしを作る作業をしている母の光景が目につかぶのはなぜ??? グリーンカーテンに感謝!そして母に感謝!)